特集

近場の観光を楽しみ つなぎ温泉を盛りあげよう。

8月の集中豪雨によって大きな被害を受けたつなぎ温泉。多方面からの支援で順調に復旧した今、各宿泊施設では忘年会シーズンに向けた企画を多数用意しています。思わぬ自然災害は地元の観光資源の価値を改めて知る機会にもなりました。この冬はつなぎ温泉へ出かけて、地元から元気な様子を発信していきましょう。

これからの季節、御所湖と岩手山の雪景色も美しいつなぎ温泉

予約客への対応に追われた当日

今年8月8日から8月9日にかけて発生した大雨は各地に多大な被害を残しました。国では8月20日付でこの「これまでに経験したことがないような大雨による被害」を「激甚災害（本激）」と指定しています。

雫石町の鶯宿温泉やつなぎ温泉などの観光施設も大きな被害を受け、その様子は全国ニュースにも取り上げられました。四季亭の女将・林晶子さんは、災害当日を振り返って話します。

「10時30分頃に、宿泊していたお客様をお見送りしました。その時点で道路の水はさほど多くなかったので、気持ちに余裕がありました。でもわずか20分ぐらいで状況が一変。11時15分には旅館の玄関前を流れる雨が濁流に代わり、流木や冷蔵庫、社員の車までも流れだしていました」。

林さんは、既に11時過ぎから当日の予約客に宿泊キャンセルをお願いする連絡を入れ始めていたそうです。さらに現状を踏まえて、翌日の予約客にも連絡を取りました。旅行中のお客様が多いため、旅行会社やエージェントなど可能な限りに電話をかけたとのこと。そして、11時55分に避難勧告が出たあと、お昼すぎに停電。社員と共に携帯電話でのやりとりを終え一通り対処したあとは3階で救助を待ちました。夕方にはレスキュー隊の指示で避難所となった繋小学校に移動。すでに食料や寝具などが揃っており、関係機関の対応の早さに驚いたといいます。

迅速な対応とボランティアへの感謝

この日を振り返り、館内にお客様がいなかったことで比較的冷静に対応できたと話す林さん。ここ数年全国的に増える局地的な大雨は、規模も予測できないゆえどう対処していい

集中豪雨の翌日、玄関前の泥処理をする四季亭の皆さん

水の流れた状況など当日の様子を説明する林さん

いか迷う面もあります。

「私共の場合は観光地ですから、せっかく楽しみに来ているお客様に迷惑をかけることにもなり、どこで何を判断するか難しさがあります。災害時に万全を期すために予約客との連絡方法を確認しておくことも大事ですね。警戒すべき状況が発生したら常に情報収集することも適切な判断につながると深く感じました」。

今回は、災害直後の行政や自衛隊、消防関係機関、ボランティア関係者の迅速な対応が復旧の大きな助けとなりました。岩手県災害対策本部資料によれば、岩手県では8月9日8時45分に岩手県災害警戒本部を設置し情報収集を行い、13時5分には岩手県災害対策本部に切り替え。同時に自衛隊に対して雫石町、矢巾町、盛岡市への災害派遣要請をし、災害応急対策を行っています。翌日には盛岡市災害ボランティアセンターが設置され、11日につなぎ地区活動センター内につなぎサテライトも開設されています。こうした体制のもと、土砂災害を受けた施設や民家の泥上げ、がれき撤去などに多数のボランティアが集まり、1週間ほどで土砂が片付いたそうです。とはいえ、まだ観光地としての整備は続きます。

「道路や景観を直さなければ、何も知らずに来た人が『なんだかひどかった』という印象だけを受けて帰ってしまう。すでに温泉は元気に営業していますが、口コミやマスコミ報道で足が遠のいたお客様を取り戻すには時間がかかります」。

冬に向け、つなぎ温泉全体のピーアールに林さんも気合いが入ります。

地元で足を運んで温泉を盛り立てよう

そして11月。つなぎ温泉では、忘年会や新年会の企画をいろいろ準備中です。南部の殿様が庶民に温泉を開放した日とされる12月25日には湯めぐり企画も行う予定なのだとか。

市街地から約30分の距離にあるつなぎ温泉。こうした観光資源は身近にあると当たり前と思いがちですが、復旧には多くの人力があったことも確かです。

「今回、市や県、消防など関係機関の対応は迅速でした。ボランティアの皆さんは見返りを期待することなく人を助けたいという意識の高い人たちばかり。私たち商業観光事業者は復旧作業を業者に頼むこともできますが、民家の方々はボランティアが頼みの綱。本当にお世話になりました」。

そう話すのはホテル紫苑・愛真館の代表取締役社長・菊地善雄さんです。ホテル紫苑は災害翌日に営業を開始し、災害直後に温泉が使えなかった旅館の宿泊客を受け入れるなど、温泉全体でお客様を迎えるスタンスで営業を続けてきました。しかし、夏の観光シーズンを楽しもうと予約いただいたお客様に迷惑をかけたことに、菊地さんは申し訳なさが残ると言います。今後は支援に対する感謝も込めて、温泉一丸となってお客様を受け入れたいとのこと。

「会社の宴会も宿泊してじっくり話せば気心も知れて縁も深まるものです。家族旅行も、今年の冬は近場でゆっくり楽しんでみませんか」と呼びかけます。

冬は地元に温泉のある贅沢をもっとも感じられる季節。遠方の旅行者だけでなく地元盛岡に暮らす住民自身が温泉を堪能して、その価値を発信していこうではありませんか。

取材／「SANSA」企画編集委員会

30年前に岩手県の急傾斜地指定を受け、つなぎ地区では要所にコンクリート壁がつくられました。今回の被害拡大を食い止めるうえで大きく役立ちました

災害時の支援に対し、深い感謝の思いを語る菊地善雄社長

■取材協力／つなぎ温泉・四季亭／ホテル紫苑・愛真館　■写真提供／つなぎ温泉観光協会　TEL.019-689-2109